

大東アズル帳

(19)

輝いて今、二十歳 (成人式)

さらめく朝日の中を、若い人たちが続々と成人式場の住道中学に集まって来る。

今年「成人式」を迎えるのは四十年から四十一年春にかけて生まれた満二十歳の人たちである。成人を祝うしきたりは古く、十五歳の元服がすむと村役神事、結婚が認められた。

昭和二十三年に一月十五日を「成人の日」と制定され以来国民的祝日である。文化人類学では、儀礼は特定の「時」に行われ、特定の服装をする場合があり、人間の知恵と経験を凝縮した物といっている。

人生の折り返しを刻印し、一人の人間を秩序の中で与えられた責任ある地位と、その役割を果たす様な存在につくり変える仕組みである。

るといつている。

成人式は人の一生にとつて通過する区切りの時間に対応する念入りの通過儀礼の一つであるという。

「新成人」が生まれた二十年前の世の中は、大東市発足十周年、人口約五万二千であった。

東京オリンピックの翌年で、テレビが一挙に家庭に入り込んだころでもある。

新幹線開通のベルが、高度経済成長の幕あけを告げ、アポロ十一号の月面着陸に胸を躍らせた事と思ふ。

多分三、四歳であった。沖繩返還、オイルショック、ベトナム戦終結と内外共にめまぐるしい動きであった。

世間の中流意識を定着した、たゆまない経済成長は

我が国にかつてない豊かさをもたらした。

この二十年の父母からの賜物を謙虚にバトンタッチして、より幸せな社会を作つてほしいと思う。

若い人たちは二十一世紀へのランナー。国際青年年のテーマ、開発、参加、平和、と世界人口約五十億人に占める推定九億人の青年が果たす役割りは大きい。



二十歳の旅立ち……
希望と責任をもって

今日の「出発点」で生涯「洋服で行くの。わたしにつながる自分の生き方を、もう一度考えて見たい機会でもある。」

若いうちから努力してつかみとつたものは経験を養分にして育ち続ける事ができる。

ラグビーの松尾雄治さんは、「自分で作つた目標に挑戦してはどうですか」と。青春の言葉である。

勇気とやさしさをベースにした大きく豊かな持ち時間「宝」である。

「ネクタイの結び方教えてといわれた時は本当にうれいでしたナ」と万感を言葉少なく語られるお父さんがいらつしやう。

「わたしは振り袖で行

味わい深い句である。

若いアーチ成人式場は、大勢のお祝いの言葉や、記念品贈呈、アトラクション等心づくしの数々である。

新成人のあいさつも立派である。

花東が揺れる様に鮮やかな皆の成人ぶりに心から拍手を贈った。

同窓生との再会にいつまでも去り難く話が弾む光景もあつた。

一月の風は凛冽(りんれつ)である。

さらりと若さに輝いて、今、二十歳の皆さん、ご成人おめでとうございます。

文・川西恵美子